

## 研究ノート

長島愛生園を訪れた人々ー平成11年から平成15年までー

People who visited National Sanatorium

Nagashima-Aiseien: from 1999 to 2003

山根 (吉長) 智恵<sup>1)</sup>

Chie Yamane-Yoshinaga

キーワード：ハンセン病、「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟（国賠訴訟）、  
言語接触、言語生活

Keywords : Hansen's disease, Leprosy prevention law unconstitutional national  
compensation litigation, language contact, language behavior

### 1. はじめに<sup>(1)</sup>

日本におけるハンセン病患者<sup>(2)</sup>は、政府が施行した 1907 (明治 40) 年の「癩予防に関する件」という法律により、療養所への収容・隔離を余儀なくされることになった。戦後の特效薬の出現により、ハンセン病は治療可能な病へと変わったが、1953 (昭和 28) 年に成立した「らい予防法」は、実質的には療養所への強制収容に近いものであった。しかし、戦前から療養所を訪問する人はおり、1958 (昭和 33) 年からは、無菌の者はバスレク (バス旅行) で島外に出ることも許されるようになり、また社会復帰も可能となった。さらに、1988 (昭和 63) 年には悲願の「邑久長島大橋」が開通し、長島愛生園・邑久光明園という 2 つの療養所を持つ長島は、初めて本土と結ばれることになり、車があれば時間を気にせず島外に出られるようになる。そして、ついに 1996 (平成 8) 年 4 月 1 日、「らい予防法廃止に関する法律」が施行されるのである。

筆者らの研究課題である「ハンセン病療養所入所者の言語生活」は、隔離された中で生活を送ってきた入所者の言語生活を調査・分析することで、現在既に収集した長島愛生園・邑久光明園の入所者に対するインタビュー談話を分析している段階である。しかし、拙稿 (2014、2015、2016、2017、2021) でも触れたように、戦前からこれらの療養所に

---

<sup>1)</sup> 山陽学園大学総合人間学部言語文化学科

は多くの訪問者があり、言語接触という観点からは、訪問者の状況についても調査しておく必要がある。本稿では、1999（平成11）年から1993（平成15）年までの園誌『愛生』に記された訪問者を分析することで、らい予防法廃止後の状況について考えてみたい。

## 2. 1999（平成11）年から2003（平成15）年までの状況

1999（平成11）年2月末に愛生公園が完成、6月9日には新愛生会館開館式、11月10日には愛生会館落成記念のイベント、2000（平成12）年11月20日には創立70周年記念式典が行われ、2003（平成15）年8月8日には歴史館がオープンした。これらは、人権教育という観点からも、訪問者の確実な増加に結びついていった。その他、園としての大きな出来事については、1999（平成11）年8月の訪問者宿泊所「しんじゅ荘」の完成、2002（平成14）年5月21日に行われた新納骨堂落成式、9月下旬に行われた長島盲人会創立50周年記念式典がある。また、久々に皇室の訪問も1999（平成11）年10月27日にあった。邑久光明園開園90周年記念式典に来園された三笠宮信子妃殿下が、午後愛生園を訪問され、平成公園にくろがねもちを記念植樹されたのである。

しかし、この5年間で最も入所者に影響を及ぼしたのは、1998（平成10）年7月31日、菊池恵楓園（熊本県）、星塚敬愛園（鹿児島県）の入所者13人が、「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」を熊本地方裁判所に提訴し、愛生園の入所者の中にそれに続く者が出たことである。岡山では、1999（平成11）年9月27日に岡山地方裁判所へ提訴された。「人間回復の裁判」として注目されたこの裁判は、2001（平成13）年5月11日、熊本地裁が国の隔離政策に対して原告勝訴の判決を下し、5月23日に政府が控訴を断念、5月25日に熊本地裁判決が確定することで、新たな補償制度や療養所の退所者の給与金制度整備に結びついていった。さらに2002（平成14）年に「ハンセン病問題に関する検証会議」が設置され、約2年半にわたって検証事業が行われた。岡山県では2001（平成13）年7月24日に、岡山県におけるハンセン病問題の実態調査と正しい認識を深めるための対策の進め方を調査審議するため、「岡山県のハンセン病対策を振り返り正しい理解を進める委員会」が設置された<sup>3)</sup>。そしてこの訴訟が、弁護士の来園増加と関係することにもなる。

邑久長島大橋ができたことで、園外に出ることが容易になったことについては拙稿（2021）でも触れたが、1999（平成11）年～2003（平成15）年においてもバスレク（バス旅行）は実施された。入所している各センター主催、クラブ主催（例：老人クラブ・釣りクラブ・卓球クラブ・バドミントンクラブ・陶芸クラブ・猛虎会・カラオケ愛好会・囲碁会）、自治会主催、宗教団体主催（例：禅宗）等があり、岡山県内では藤公園（和気）・嫁いらず観音院（井原）・おかやまフォレストパークドイツの森・岡山後楽園・倉敷マスカットスタジアム・遍明院（牛窓）、県外では大阪ドーム・須磨（神戸）・祥福寺（神戸）・淡路島・赤穂・渦潮（鳴門）・しまなみ海道・出雲大社・大山・境港・とっとり花回廊等、関西地方・四国地方・中国地方を中心とした旅行を楽しむことにつながった。里帰り<sup>4)</sup>についても、愛知県・富山県・福井県・新潟県・静岡県・三重県・滋賀県・奈良県・京都府・大阪府・兵庫県・広島県・山口県・島根県・鳥取県・徳島県・愛媛県・高知県・福岡県・長崎県への里帰りが実施された。

全国に国立・私立合わせて15ある療養所との交流については、特に2000（平成12）年の開園70周年を記念して、全国友園親善囲碁大会が5月に実施された。その他、岡山市

の岡山東商業高校で行われた「東商デパート」、岡山吉本三丁目劇場、岡山市の花火大会、邑久パルーンミーティングへ招待されたり、木下大サーカスを見たりといった、バスレクや里帰り以外で出かけることも確実に増えていった。

また、「岡山県ハンセン病対策を振り返り正しい理解を進める委員会」「ハンセン病の正しい理解を進める普及啓発事業実行委員会」「岡山県ハンセン病に関する県民の意識調査実行委員会」については、愛生園自治会の副会長や総務委員長も出席するために園外に出、関係者と意見を交わす機会を得ることとなった。2022（平成 14）年 2 月 22 日には、岡山県・岡山県教育委員会主催、長島愛生園・邑久光明園入園者自治会協力の下、ハンセン病シンポジウムが岡山市のシンフォニーホールで開催され、愛生園入園者の一人が「入園者の思い」を語り、「ハンセン病を知る～尊厳と未来」というパネルディスカッションには、別の入園者がパネリストとして参加した。2021（平成 13）年 10 月に国賠訴訟判決 1 周年記念勝利報告集会在熊本市で行われた時は、副会長が出向いた。このように、ハンセン病に対する関心が高まるにつれ、園外で様々な人に触れる機会も増えていったのである。

### 3. 訪問者の在住地域

それでは、訪問者はどのような地域から長島愛生園に足を運んだのであろうか。訪問者を在住地域別にまとめたものが、以下の表 1<sup>6)</sup>である。

ここから、長島愛生園の所在地である岡山県からの訪問者が 2,098、65.3%と、全体の 6 割以上を占めていることがわかる。これは、拙稿（2017）でも触れたが、訪問者に岡山大学・岡山病院等からの非常勤医師や鍼灸師名を挙げるようになり、それらの人々を、谷口元園長を除き、岡山県からの訪問者としていることが影響していると考えられる。また、他地域と比べて多いのが近畿地方と中国地方からの訪問者で、406、12.6%、266、8.3%である。これは、近畿地方の場合宗教関係者の来園が多く、中国地方の場合官公庁からの来園が多いことも一因であろう。遠方であっても沖縄からは 2003（平成 15）年を除き毎年訪問者がいるが、東北地方や北海道地方からの訪問者が少ないのは、より近い場所にある園を訪問することで充分であるからかもしれない。海外については、外国人神父の来園は以前と比較して確実に減少しているが、在日の入所者がいることもあり、韓国からは 1999（平成 11）年にハンセン病療養所・ソロクト（小鹿島）の自治会役員やイ・ハンシ領事、キン・ヨンウン書記官が来園、岡山県民団<sup>6)</sup>については 2001（平成 13）年を除き、毎年交流で来園している。他に 1999（平成 11）年には台湾のハンセン病療養所楽生園一行、アメリカ合衆国ニューヨーク州の IDEA というハンセン病回復者ネットワークの創設メンバーであるアンウェイ・スキンスネス・ロー氏が、2000（平成 12）年、2002（平成 14）年には、ハンセン病の患者が多いミャンマーから医師が足を運んでいる。その中で、ティンフライ医師は、2002（平成 14）年 1 月 21 日から 2 月 1 日まで、治療施設を見学したり、愛生園だけでなく光明園でも理学療法や外来実習を行ったりと、研修のために滞在した。これは国際協力事業団（JICA）のハンセン病対策プロジェクトの一環として行われたものである。

ここから、言語接触という観点からは、英語・韓国語・中国語・ミャンマー語を耳にすることがあったとしても、訪問者の約 8 割が岡山県と近畿地方で占められ、バスレクの先も岡山県内や関西方面が多かったことから、入所者が耳にした日本語は、共通語以外では

岡山方言と近畿地方の方言が多かったことが推察される。ただし、バスレクで山陰地方や四国に行くこともあり、また里帰り等で出身地の方言を聞くこともあったことが推察されるため、様々な日本語に触れる機会は以前と比べ増加していると思われる。

表 1 地域別訪問者数

年	岡山	近畿	関東	四国	九・沖	中国	中部	東北	北海道	海外	その他	合計
1999	412	83	13	10	10	19	12	1		9	47	616
2000	361	56	11	4	4	25	15	1		2	35	514
2001	401	74	11	13	10	43	28	1	1		39	621
2002	496	91	4	14	5	88	16	1	1	2	44	762
2003	428	102	12	14	2	91	16			1	33	699
合計	2098	406	51	55	31	266	87	4	2	14	198	3212
注1	「九・沖」：九州の各県及び沖縄											
注2	「中国」：岡山県を除く中国4県											
注3	「海外」：海外からの訪問者（国内在住の外国人を含む。）											
注4	「その他」：在住地域不明											
注5	空欄は「訪問者なし」を意味する。表2も同様。											

#### 4. 訪問者の所属機関・訪問目的

では、訪問者にはどのような職業の人が多く、また訪問目的はどのようなものであったのだろうか。本章では、訪問者の所属機関（職業）または訪問目的を、①学校（小学校、中学校、高校、専門学校、予備校、短大、大学、養護学校。教授、教職員、学生、保護者等）、②宗教団体（キリスト教婦人会、仏教婦人会、神父、牧師、僧等）、③ハンセン病療養所・関係機関（日本財団・笹川財団、藤楓協会<sup>(7)</sup>、療養所の医師・職員等）、④官公庁・研究所・国会議員（厚生省（厚生労働省）、中四国地方医務局、県の衛生部・保健福祉部、県・市の教育委員会、参議院議員、衆議院議員、市長、県市の職員、民生委員<sup>(8)</sup>等）、⑤マスコミ（新聞社・放送局・出版社の社員等）、⑥短歌・俳句・川柳・詩・詩吟の会（指導者等）、⑦医療機関（医師、看護師、事務職員、医療法人関係者等）、⑧皇室、⑨慰問（歌手、舞踊関係者等）、⑩その他（愛育委員会・人権擁護委員会・スポーツチーム・青年会議所・陶芸家・婦人会・部落解放同盟・フレンズ国際労働キャンプ<sup>(9)</sup>・隣保館<sup>(10)</sup>、県・市以外の同和教育関係者等）に分け、その数を以下の表2にまとめた<sup>(11)</sup>。

表2から見て取れるのは、まず、医療機関関係者が1,457、45.4%と最も多いことである。これは前章でも触れたように、非常勤の医師や鍼灸師を訪問者に含めるようになったことが一因であろう。特にハンセン病については、治癒したとしても後遺症が残っている入所者も多い。視力障害、知覚麻痺、発汗障害、運動麻痺、神経痛等である<sup>(12)</sup>。そのため、岡山大学からは眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、皮膚科の医師が、川崎病院からは眼科の医師、江木医師が、岡山病院からは泌尿器科と婦人科の医師が毎年来園している。また、個人名として挙げられているのは、眼科の大月医師、基本科の尾崎医師、形成外科の鈴木医師・中谷医師、耳鼻科の大島医師、整形外科の平賀医師、担当科は不明だが、中山医師、富永医師、山本医師、大石医師、熊野医師、土田医師、依光医師、黒瀬医師、堀医師、中田医師、山崎医師、福井医師、渡辺医師、野村医師、浅海医師、三谷医師、大和医

師、永山医師、浜田医師である。岡山大学については外科の安藤医師の名前も見られる。鍼灸師に関しては、岡崎鍼灸師の名前のみが挙げられている。

次に多いのが官公庁からの訪問者で、458、14.3%を占める。関係省庁である厚生労働省医療局政策医療課、中四国地方医務局、各県・市の健康増進課・保健福祉部・教育委員会、人権同和教育関係の課等から、担当者が来園している。特に保健福祉部に関しては、遠くは北海道、秋田県、山形県、沖縄県からも来園しているのが興味深い。議員関係では、1974（昭和49）年から毎年のように訪れていた元浜貫一県議会議員の名前が2000（平成12）年以降見当たらず、代わって1999（平成11）年から2001（平成13）年までは江田五月参議院議員、1999（平成11）年から2000（平成12）年までは中桐伸吾衆議院議員、他に熊代昭彦衆議院議員、立岡邑久町長の名前も見られる。特に江田五月参議院議員は、2001（平成13）年には国賠訴訟報告集会のため来園している。また、この国賠訴訟に勝利した2001（平成13）年には、石井岡山県知事、萩原岡山市長、太田大阪府知事、加戸愛媛県知事、橋本高知県知事、片山鳥取県知事、二井山口県知事、藤田広島県知事、岐阜県知事、福岡県副知事、境港市長、益田市長、広島市長も訪れている。この年は、枅屋副厚生労働省副大臣一行が万霊山に献花し、回春寮前広場に記念植樹（泰山木）を行うという出来事もあった。

次に多かったは宗教関係者で337、10.5%を占めた。これは葬儀、布教、宗教行事催行のためであるが、これまで多かったキリスト教のカトリック関係者の外国人神父に関しては、1999（平成11）年に笠岡教会のシメット神父、岡山教会のミセル神父の名前が見られるだけである。日本人だがカルメラというシスター名を持つ、京都ノートルダム修道院の稲光千賀子氏については、これまでも来園歴があり、1999（平成11）年から2002（平成14）年までも来園歴があるが、2003（平成15）年には名前が見当たらない。他に岡山カトリック教会の木陰神父、野間神父、姫路カトリック教会の神原神父、京都の外川神父、シスター仁平の名前は見られるが、キリスト教関係者の数は46と減少している。これに対して、浄土真宗関係者は120と宗教関係者の35.6%を占め、次に仏立宗66、日蓮宗54と続く。この3宗教については、定例布教の数を含めていることが関係している可能性があるが、それにしても浄土真宗関係者は多く、また仏立宗も増加している。

浄土真宗関係では、山陽教区、兵庫県の上野会、安芸教区の岡本法治師、岡山県美作市の森本晃師が来園している。これらの来園者は毎年ではないが、臨済宗の神戸・祥福寺の河野太通師、仏立宗の大阪・清風寺関係者は毎年来園している。特に河野師は1999（平成11）年、2000（平成12年）には講演を行っており、清風寺関係者は慰問のために訪れ、屋外パーティーを行って入園者を楽しませていることが窺える。また、岡山県関係者に関しては1999（平成11）年のみであるが、日蓮宗の広本上人（建部町）、仏立宗の山内御導師（倉敷）の名前が見られる。しかし、天理教についてはこれまで頻繁に挙がっていた植田慶三師の記録がなく、浄土真宗においてもこれまで頻繁に挙がっていた師の名前が見当たらない。ここから世代交代の時期に来ていることが推察される。

学校関係者については、この期間に323、10.0%の割合で訪れており、内訳は小学校68、中学校59、高校46、専門学校・短期大学・大学123、その他（例：養護学校）27である。その中で愛生園に分校があったが1965（昭和40）年3月にその分校が閉校になった裳掛小学校については、2012（平成14）年、2013（平成15）年に児童が来園している。また

学校関係者には含めず療養所関係に含めているが、2001（平成13）年10月には邑久高等学校定時制課程新良田教室を巣立った生徒の同窓会も行われている。

その他、1999（平成11）年から2001（平成13）年まで毎年来園した倉敷市立穂井田小学校の児童は、学芸会を披露したりゲートボール交流を行ったりしている。1991（平成3）年から1998（平成10）年まで毎年夏祭りの手伝いに訪れた、カトリック修道会のイエズス会を母体とする六甲学院の生徒たちは、1999（平成11）年から2002（平成14）年までも毎年夏まつり関係で来園している。この他、キリスト教を母体とする学校機関としては、以前から来園していた桃山学院大学、ノートルダム清心女子大学が、本稿の分析期間である5年のうち4年来園している。キリスト教を母体としない学校機関としては、東京にあるYMS予備校から毎年、岡山商科大学付属高校、岡山県立大学から5年のうち4年来園している。また、以前毎年来園していた「一燈園ありがとう愛の会」と関係する一燈園中学校が2002（平成14）年、2003（平成15）年に来園している。学校関係については、特に2002（平成14）年以降、県外も含め、小学校のような低学年の児童の来園が増加しており、ここから愛生園を通しての人権学習が低年齢層にまで広がっていることが窺える。

なお、山陽学園関係については、訪問者に名前は見られないが、1999（平成11）年、2000（平成12）年には2万円、2001（平成13）年、2003（平成15）年には1万5千円の寄付を行っている。

療養所関係については、この5年間のうち目と鼻の先にある邑久光明園からは毎年来園者があり、3園交流を続けてきた大島青松園（香川県）の名も2003（平成15）年を除き毎年見られる。他にも1999（平成11）年には菊池恵楓園、宮古南静園（沖縄県）から、2000（平成12）年には松丘保養園（青森県）、栗生楽泉園（群馬県）、多摩全生園（東京都）、駿河療養所（静岡県）からの来園があった。また、1999（平成11）年には、愛生園にも勤務していた小川正子女史の資料を保存している笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館（山梨県）一行が、2000（平成12）年にはハンセン病救済活動に尽力したハンナ・リデル、エダ・ライトの資料を展示しているリデル・ライト両女史記念館（熊本県）の館長が、1999（平成11）年、2001（平成13）年、2002（平成14）年には、全国ハンセン病療養所入所者協議会（全療協）事務局長の神氏が来園している。その他、これまでも来園していた藤楓協会、日本財団・笹川財団からも訪問を受けている。さらに愛生園関係者としては、友田名誉園長だけでなく、友田氏が会長である長友会（長島愛生園職員OB会）メンバーも2000（平成12）年に来園し、2000（平成12）～2002（平成14）年には谷口名誉園長の名前も見られる。

それ以外で訪問回数が多いのは、同和教育関係の委員会や協議会関係者で、80回に上る。これまでも多かった愛育委員関係者も29回の来園歴があるが、この5年間で目立つのは、前述した国賠訴訟関係の弁護士で22回の来園歴が見られる。また同和教育と関係して、部落解放同盟関係者の来園も21回に及ぶ。前年までも来園し、この5年間においても名前が見られる中で多いのは、毎年来園しているフレンズ国際労働キャンプ関係者、2003（平成15）年を除き舞踊披露の慰問に訪れた藤間竹遊氏<sup>13</sup>、奈良架け橋の会関係者で、陶芸家の松本政昭氏の名前も1999（平成11）年～2001（平成13）年には見られる。しかし、川柳の選者、大森風来子氏は引退し、花柳（福井）徳三尾師の名前も2000（平成12）年のみ、写真の審査員を務めた緑川洋一氏の名前も2001（平成13）年以降は見られない。

代わって隣保館関係者と倉敷のコールひまわり合唱団が 2000 (平成 12) 年から毎年訪れている<sup>(14)</sup>。ここからも世代交代の動きが見て取れる。

これらの訪問者を言語接触という観点から見ていくと、弁護団との接触は密であったと思われる。また、ゲートボール交流をした小学生、夏祭りの手伝いに来ていた高校生、名誉園長ら愛生園 OB 等とは言語接触の時間が長かったことが推察される。

表 2 所属機関・目的別訪問者数

年	学校	宗教	療養所	官公庁	マスコミ	短歌	医療	皇室	慰問	その他	合計
1991	51	100	13	59	1	1	295	1	15	80	616
1992	35	58	33	44	3		262		10	69	514
1993	62	60	33	111	5		270		5	75	621
1994	92	68	30	98	6	1	354		10	103	762
1995	83	51	21	146	4	1	276		12	105	699
合計	323	337	130	458	19	3	1457	1	52	432	3212

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、園誌『愛生』を基に、1999 (平成 11) 年から 2003 (平成 15) 年までの訪問者と長島愛生園で暮らす入所者との言語接触の可能性について、5 年間の状況、訪問者の在在地域、訪問者の目的の観点から見ていった。

その結果、療養所内の交流では岡山方言と近畿地方の方言が主だったとしても、架橋、らい予防法廃止に加え、国賠訴訟で全国的に注目を浴びる結果になったことから、訪問者が増え、また療養所の外に出る機会も増えたため、様々な方言に触れる可能性が以前よりさらに増加したと言える。

今後は 2004 (平成 16) 年以降の『愛生』の分析を行い、園訪問者や園外での言語接触の可能性を引き続き分析・考察するとともに、インタビュー調査の結果をデータ分析支援ソフトを用いて分析することで、文献データとインタビューデータの両面から入所者の言語生活を明らかにしていきたい。

## 付記

本稿は、科学研究費 (挑戦萌芽) 「ハンセン病入所者の言語生活」(26580085) の研究成果 (継続研究) の一部である。

## 注

(1)1 章の大部分は、拙稿 (2017、2021) にも記されている。

(2) 「ハンセン病」は、1996 (平成 8) 年の「らい予防法廃止に関する法律」施行以前は「らい病」と呼ばれていた。本稿では、その「らい」の表記に関して、法案等でひらがな表記をしているものについてはひらがなで、漢字表記にしているものについては漢字で表記している。

(3) 厚生労働省「ハンセン病問題を全面解決するために」、佐川修・大竹章・成田稔編著 (2002) pp.97-100、岡山県ハンセン病問題関連史料調査委員会ハンセン病問題関連史料調査専門員編 (2009) pp.723-726、国立療養所邑久光明園入園者自治会編 (2009) p.266 参照。

- (4)おもに各県がバス代等を負担し、郷土を見学した行事。国立療養所長島愛生園入園者自治会（1982）pp.171-172 参照。
- (5)本稿執筆段階で居住地域が判明していない者や訪問目的が不明な者については「その他」に含めているため、今後の調査で在住地域等が判明した場合、表1の数字に変更が生じる可能性がある。また、日本在住であっても外国人神父、韓国民団については「10」の海外に含めている。
- (6) 在日本大韓国民団の略で、民団は民族団体のことである。
- (7) らい予防協会の事業を受け継いだ協会。山根（2015）注(7)参照。
- (8)各地域において、ハンセン病の情報を収集したり、患者やその家族の相談に乗ったりした人。
- (9) Friends International Work Camps。ハンセン病国立療養所でワークキャンプを行い、資料整理や入所者との交流を続けている団体。
- (10)<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/kaigishingikai/hokoku/chikijinkenbosaisomu/uneishingikai.files/rekisi.pdf> 参照。
- (11) 大学の医学関係の教授、学生が訪問している場合は、「医療機関」ではなく、「学校」に含めている。なお、今後の調査で所属機関や目的が判明した場合、表2の数字に変更が生じる可能性がある。
- (12) 国立ハンセン病資料館編（2013）『国立ハンセン病資料館常設展示図録 2012』p.102、国立ハンセン病資料館編（2013）『かすかな光をもとめて－療養所の中の盲人たち－』p.43 参照。
- (13) 藤間（2006）pp.144-153 参照。
- (14) その他、特筆する訪問者に、愛生会館落成記念で1999（平成11）年11月10日に来演した歌手の香田晋氏、開園70周年記念で2000（平成12）年11月22日に来演した歌手の神野美伽氏、長島カラオケ愛好会25周年記念で2003（平成15）年7月9日に来演した歌手の中村美津子氏、2003（平成15）年2月6日、8月26日に来演した歌手の山本リンダ氏がいる。

#### 参考文献・参考 URL

- 一燈園 <https://www.ittoen.or.jp/>（2023年1月21日閲覧）
- 岡山カトリック教会創立百周年記念事業実行委員会百年史部（1983）『岡山カトリック教会百年史』岡山カトリック教会
- 岡山県ハンセン病問題関連史料調査委員会ハンセン病問題関連史料調査専門員編（2009）『長島は語る 岡山県ハンセン病関係資料集・後編』岡山県
- 厚生労働省 ハンセン病に関する情報ページ  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/hansen/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/hansen/index.html)（2023年1月21日閲覧）
- 厚生労働省 「資料」  
<https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/hansen/kanren/dl/4a32.pdf>  
（2023年1月21日閲覧）
- 厚生労働省 「ハンセン病に関する主な出来事」  
<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/h0131-5/dekigoto.html>  
（2023年1月21日閲覧）
- 厚生労働省 「ハンセン病問題を全面解決するために」  
[https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/dl/h0131-5j\\_09.pdf](https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/dl/h0131-5j_09.pdf)（2023年1月21日閲覧）
- 厚生労働省 「歴史から学ぶハンセン病とは？」

<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/h0131-5/histry.html>

(2023 年 1 月 21 日閲覧)

国立療養所邑久光明園入園者自治会編 (2009)『邑久光明園創立百周年記念誌「隔離から解放へ」－邑久光明園入園者百年の歩み－』山陽新聞社

国立療養所長島愛生園 (2010a)『国立療養所長島愛生園 創立 80 周年記念誌 [第一部] 80 年を迎えて』国立療養所長島愛生園

国立療養所長島愛生園 (2010b)『国立療養所長島愛生園 創立 80 周年記念誌 [第二部] 振り返れば 80 年』国立療養所長島愛生園

佐川修・大竹章・成田稔編著 (2002)『ハンセン病資料館』高松宮記念ハンセン病資料館運営委員会

山陽新聞社編 (2017)『語り継ぐハンセン病－瀬戸内 3 園から』山陽新聞社

長島愛生園入園者自治会 (1982)『隔絶の里程－長島愛生園入園者五十年史－』日本文教出版

ハンセン病国賠訴訟

<https://www.hansenkobai.gr.jp/index.html> (2023 年 1 月 21 日閲覧)

モグネット (フレンズ国際労働キャンプについて)

<https://mognet.org/fiwc/whatfiwc.html> (2023 年 1 月 21 日閲覧)

山根 (吉長) 智恵 (2014)「長島愛生園を訪れた人々－昭和 6 年から昭和 19 年まで－」『山陽論叢』第 21 卷

山根 (吉長) 智恵 (2015)「長島愛生園を訪れた人々－昭和 21 年から昭和 40 年まで－」『山陽論叢』第 22 卷

山根 (吉長) 智恵 (2016)「長島愛生園を訪れた人々－昭和 41 年から昭和 60 年まで－」『山陽論叢』第 23 卷

山根 (吉長) 智恵・久木田恵 (2016)「ハンセン病療養所入所者の方言受容」『日本語の研究』第 12 卷 4 号 p.202

山根 (吉長) 智恵 (2017)「長島愛生園を訪れた人々－昭和 61 年から平成 2 年まで－」『山陽論叢』第 24 卷

山根 (吉長) 智恵 (2021)「長島愛生園を訪れた人々－平成 3 年から平成 10 年まで－」『山陽論叢』第 28 卷

分析資料

『愛生』愛生日誌・入園者自治会日誌・寄贈金品目録 1999 (平成 11) 年 5・6 月号～2004 (平成 16) 年 5・6 月号

『愛生 開園 70 周年記念号』2000 (平成 12) 年 11 月・12 月合併号

『愛生 開園 80 周年記念号』2010 (平成 22) 年 11 月・12 月合併号